



洋画 唐岩 秀「旅」

もう少しいろんな表現があつてよいと思う。写生をする場合、とすれば対象(物)の外観を描写しがちになるものであるので、この点をいつも気にかけてほしい。

絵というものは、創られるものを感じたもの、描きたいものーをあくまでも画面に出すよう努めて欲しい。そのような絵は見る人の心を強くひくものであると思う。

△洋画△

（評）

△書道△

（評）

△特選

毛利悠映（大塙）『客中行』

関田菊子（篠原）『説懺燈』

△褒状

山岡若菜（里改田）『富士山の詩』

小川和江（下野田）『臨・灌頂記』

△無鑑査

弘末咲翠（里改田）『会津八一のうた』

川内悠溪（大塙）『一のうた』

△褒賞

小川和江（下野田）『臨・灌頂記』

△特選

友永喬（福井）『飛び立つ（すめ）』

山本清志（高知市）『若者』

△褒状

谷口隆洋（立田）『老僧』

村勝利（大塙）『シーザンの自根山』

西内儀克（下野田）『門前行く遍路』

春田昌男（立田）『田植の季節』

△写真△

（評）

（評）